



福島県立梁川高等学校

平成31年3月28日

校長通信

Team Yanagawa

vol. 39 最終号

■ 二階より雪の山見て春やすみ (星野麥丘人)

校舎四階にある視聴覚室は、学校で最も眺めがよい部屋です。南側の窓からは安達太良連峰と吾妻連峰を、北側の窓からは半田山に連なる山並みを見ることができます。テニスコートを見下ろせば、晴れ渡った空の下、ソフトテニス部の生徒諸君が元気に練習する姿が見えます。長閑な春休みのはじめ、合格者オリエンテーションが行われました。桜の開花予想も発表され、四月九日の入学式には、校舎が建つ鶴ヶ岡の桜も見頃を迎えるようです。日に日に春めく季節に、学校では新年度に向けた準備が着々と進んでいます。新年度が生徒諸君にとって、希望に満ちた一年になることを願っています。



■ 心に橋を架けるといふこと ～広瀬川に架かる橋を手がかりに～

毎朝、校門や正面玄関の周辺で登校指導をしていると、晴れた日には絶景を楽しむことができます。校舎が建つ鶴ヶ岡の高台からは、南西から北西の方向に、残雪に輝く安達太良連峰と吾妻連峰、地滑り崩壊の痕が荒々しい半田山の稜線が青空にくっきり浮かんでいます。視線を市街地に転じれば、梁川の街並みを縫うように流れる広瀬川の清流が銀色にきらめく様が見えます。特に広瀬川は古くから恵みと災厄の両方をもたらした、街の歴史とは切っても切れない関係にあります。街を流れる広瀬川には多くの橋が架かっており、まさに「梁川は橋の街」と言えるでしょう。学校の手前から観音橋、鶴ヶ岡橋、広瀬橋、万代橋の順に並んでおり、川の流れと橋が独特な景観を作り出しています。梁川の街は広瀬川を挟んで南北に分かれており、4つの橋には川北地区と川南地区を結ぶ重要な役割がありました。広瀬川に架かる橋の歴史は古く、上杉氏時代の梁川城絵図(1600年頃)には広瀬橋が描かれています。また、松前氏時代の梁川城下絵図(1807年)には広瀬橋と共に観音橋が描かれています。その他、鶴ヶ岡橋は大正時代初めに、万代橋は大正13年に架けられました。その後、これらの橋は洪水による流失と架け替えを繰り返しながら今日に至っています。



なかでも広瀬橋は繁華街を貫く国道349号に架けられ、街の中心に位置し、私にとって思い出深い橋です。幼い頃、毎年のように伯父や従兄弟に連れられ夏祭りに見に来ました。恒例の花火大会と橋の下で行われる魚掴み大会は、未だに憶えています。また、叔父と叔母の結婚披露宴は、広瀬橋の手前にあった料亭で行われたと思います。当時の広瀬橋は、街に甚大な被害をもたらした昭和61年の「8・5水害」で流され、現在は架け替えられた新しい橋になっています。水害後、道路の拡幅工事も行われ、多くの商店も移転して、往時の街の姿は見られませんが、当時の賑わいや人々の熱気に満ちた息づかいは、確かな記憶として私の心に刻まれています。

ところで最近、国道349号のバイパス線の延長工事が進められ、広瀬川に新たな橋の建設が始まっています。新しい橋が完成すれば、福島方面と宮城方面の間を行き来する車両は、街中を通らずに済むことになります。梁川の交通事情も格段に便利で安全なものになるでしょう。古来より橋は人と人をつなぎ、地域と地域を結び、物資の往来を助けてきました。あらためて梁川の街と橋の関係を考えることも意味があることかもしれません。

橋についてあれこれ思い巡らせていたら、「人間は誰も心の中に橋を架けている」という言葉が浮かんできました。よくよく考えてみると、それは皇后様の『橋をかける』を読んだ記憶が呼び起こした想念であることに気づきました。1998年、インドのニューデリーで国際児童図書評議会が開催されましたが、会議の初日にVTRで上映された皇后様の基調講演を取録したものが『橋をかける』であり、子供時代の読書の思い出を語ったその講演は、世界中の人々に感動を与えました。その一節を引用します。

『生まれて以来、人は自分と周囲との間に、一つ一つ橋をかけ、人とも、物ともつながりを深め、それを自分の世界として生きています。この橋がかからなかったり、かけても橋として機能を果たさなかったり、時として橋をかける意志を失った時、人は孤立し、平和を失います。この橋は外へ向かうだけでなく、内にも向かい、自分と自分自身との間にも絶えずかけ続けられ、本当の自分を発見し、自己の確立をうながしていくように思います』

生徒諸君には、日頃から外に向かって橋をかけ、他者とつながり、社会のかけがえのない構成員となって欲しい。また、内に向かっては自分の心に橋をかけ、理想と現実と折り合いをつけ、喜びや悲しみに思いを巡らせながら、自己を確立して欲しいと切に願います。そして私たち教師は、生徒と社会をつなぐ橋となり、生徒同士をつなぐ橋となり、心に生じる様々な感情に生徒自身が思いを巡らせるための橋渡し役となるべく、日々を仕事に取り組みんでいかなければならないと思っています。【参考文献】『梁川町史10』『悠久の流れ』『橋をかける』

ドラえもん
からの
メッセージ

今月のドラえもんからのメッセージは、「いっしょうけんめいのんびりしよう」。何事も一所懸命に取り組むことは大切ですが、心に余裕を持たなければ、行動が空回りになったり、思わぬ間違いをしてしまったりするものです。また、真面目に取り組むにしても、適度に息を抜きながらでないと、疲れて出来ることも出来なくなってしまう心配もあります。ドラえもんのメッセージは、そのことを伝えているように思います。生徒の皆さん、**一生懸命のんびりと着実に**やるべきことに取り組みましょう。



■ 終業式が行われました



3月20日、3学期の終業式が行われました。私からは1年間の自分自身を振り返り、成長した所と改善が必要な所を明確にし、次年度に改善すべき点にしっかり取り組んで欲しいことを伝えるとともに、「自分を変えるにはどうしたらよいか」「心が変わるには何をすべきか」について考えました。特に**小さな心の変化が、やがて大きな心の変化となり、生徒諸君の態度や行動を変え、よい習慣よい人格となり、最終的にはよき運命よき人生をもたらすこと**を話しました。また、本校の卒業生は3年以内に約3分の1が仕事を辞めていることから、春休みの卒業後の進路について、自分の心と向き合いながらしっかりと考えるように指導しました。春休みは交通事故に遭ったり、トラブルに巻き込まれたりしないよう、くれぐれも注意し、有意義な時間を過ごして欲しいと思います。



■ 教室移動が行われました

3月18日、新年度に向けて教室移動が行われました。1年生は3階から2階の新教室へ、2年生は2階から1階の新教室へ移動しました。生徒諸君は床を雑巾がけしたり、落書きを消したり、ゴミ箱を洗ったりして、慣れ親しんだ教室に感謝の気持ちを込め、丁寧に清掃していました。1年生は中堅学年、2年生は最高学年になります。新入生の模範となり、学校の活性化に取り組んで欲しいと思います。



■ 卒業式の感動ふたたび

3月19日、インフルエンザのため3月1日の卒業式に出席できなかった生徒の卒業式が行われました。会場には同じクラスの生徒がほとんど集まってくれました。先生方が見守る中、私から卒業証書を授与し、励ましの話をしました。その後、全員で蛍の光と校歌を斉唱し、式を終了しました。ささやかではありましたが、心温まる時間をみんなで共有し、幸せな気持ちになりました。卒業式の感動をふたたび味わうことができました。

■ 合格者オリエンテーションが行われました

3月27日、合格者オリエンテーションが行われました。前半は教頭から学校の概要の説明をした後、教務部からは履修科目と授業について、生徒指導部からは学校生活で留意すべき事柄について、保健室からは健康管理について説明がありました。また、事務部、PTA担当、1学年からも連絡事項がありました。後半は入学式の日程、提出物、教科書購入、芸術科目について説明がありました。保護者といっしょに出席した合格者の皆さんは、緊張の中にも4月から始まる高校生活に思いを巡らせ、真剣に話を聞いていました。**梁川高校の教育方針をしっかりと理解し、有意義な高校生活になることを願っています。**入学式は4月9日(火)に行われます。それまで心と体の準備をし、晴れの入学式には元気に登校して欲しいと思います。



■ 自衛隊入隊予定者激励会に行ってきました

3月9日、コラッセふくしまにて県北地区自衛隊入隊・入校予定者激励会が行われ、出席してきました。本校から二名の生徒が入隊することになり、その晴れ姿を見てきました。自衛隊には国土と国民の安全を守るという崇高な使命があります。4月から厳しい訓練と大変な仕事がありますが、二人には信頼される自衛官を目指し、頑張ってくださいと思います。

■ 野球部がいわき遠征に行ってきました

3月23・24日、野球部はいわき遠征を行い、川俣高校と連合チームを組み練習試合をしてきました。1日目は四倉高校と対戦し31対1で勝利しました。2日目は平工業高校と対戦し2対23で敗れました。来シーズンに向けて、体力増強に励み、個々の技術の向上に取り組み、チームワークの醸成に努めて欲しいと思います。



■ ベンチプレスが寄贈されました

2月7日、やながわ工業団地にある(株)ナプロアース様よりベンチプレス一台が寄贈され、トレーニング室に設置させていただきました。遠藤教頭、野球部顧問の長澤先生、齋藤先生の立ち会いで寄贈式が行われました。早速、野球部員たちが筋トレに取り組んでいました。今後、いただいたベンチプレスを有効活用し、「**筋肉は裏切らない**」を合い言葉に運動部員の筋力と体力の増強を図っていきたいと思います。紙面を借りてナプロアース様にはあらためて御礼申し上げます。



ベンチプレス前で記念撮影 トレーニングする真下選手

震災から8年が経過しました

3月11日、東日本大震災から8年が経ちました。当時、本校は避難所となり、体育館に被災された方々を受け入れ、校舎が使用できなくなった梁川小学校の児童に空き教室を開放しました。福島県の復興はまだ道半ばですが、一日も早い復興を祈らざるを得ません。学校では半旗を掲揚するとともに、教職員が職員室に集まり、亡くなられた方々に哀悼の意を表すため黙祷を捧げました。



あとがき

平成29年4月から発行してまいりました校長通信「Team Yanagawa」は、今回のvol.39をもって最終号といたします。2年間にわたり、拙文におつきあいをいただき、誠にありがとうございました。私はこの度の人事異動で転出することになりましたが、今後も梁川高校の教育活動にご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

校長 菊田勇雄

